

2011年  
(平成23年)  
10月発行  
第2号

宝同協だより

# め ぼ 芽 生 え



編集発行: 宝塚市人権・同和教育協議会

〒665-8665 宝塚市東洋町1番1号 宝塚市教育委員会 学校教育課 TEL:0797-77-2040 FAX:0797-71-1891

お届けします・・・『芽生え』です

宝塚市人権・同和教育協議会

宝塚市人権・同和教育協議会が昨年十月に『宝同協だより』の創刊号を発行しましたが、今回二号目の発行となりました。

今号からこの広報誌を『芽生え』と名付けています。『芽生え』は「ものごとの起こりはじめ」です。

人権・同和教育問題は古くて新しい、わたしたちに課せられた重要な課題です。わたしたちは、過去とどうであったかを研究・検証しながらも、今現在とどうであって、どうしなければならぬかを考え行動することが大切です。即ち、今という芽生えを大切にしていきたいとの願いを持っていきます。今を大切にしていくことは、未来を明るくしていくからです。

あなたも、わたしも、みんな今という瞬間が一番若い自分です。今を大切に生きること、精一杯生き抜くこと、そして、その生き方の根底に「人権」を置いた生き方があれば、あなたも、わたしも、心豊かに生きていけるでしょう。萌え出した芽は根を広げ、茎を伸ばし、葉を茂らせ、そして花を咲かせ実をつけます。

『人権』という名の実をみなさんとともにいっしょに実らせましょう。

会長 和久 有彦



宝同協定期総会でオープニングを飾っていただいた「宝塚太鼓 大和」のみなさん

宝同協定期総会において、東日本大震災での甚大な被害に対し、被災地の方々と共に歩むことへの決議文が可決されました。

## 宝同協定期総会

5月20日(金)、ソリオホールにおいて定期総会を開催致しました。来賓(らいひん)の方々、各団体より251名のご出席をいただき、事業・決算報告・規約改正及び活動方針・予算案について審議(しんぎ)を致しました。主な規約改正として、目的の改正と副会長(研究担当)を一名増員しました。

### 【宝塚太鼓 大和】

今年の総会開会にあたり、「宝塚太鼓 大和」のシニアの方々に演奏をいただき盛大な開会式をとり行うことができました。そこで、「宝塚太鼓 大和」さんのご紹介をさせていただきます。

※名称由来：攝津國川邊郡小濱村(せつつのくにかわべくんこはまむら)は、かつて陸の小濱と呼ばれ、有馬・西宮・京伏見各街道の交差点となっており、宿場町として大変栄えておりました。その攝津國川邊郡小濱村の村称がベースとなり、古来より太鼓の響きが魂を震わせることから、日本人の魂である大和の名称を拝借(はいしゃく)し「摂津名所太鼓 宝塚大和」とされ、現在は「宝塚太鼓 大和」と改名されています。

## 決議

2011年3月11日午後2時46分に発生した東北地方太平洋沖地震は、大津波、放射能放出を引き起こし、かつて私たちが経験したことのない未曾有の大災害となりました。そして、多くの方々に被害と恐怖、そして悲しみと苦しみをもたらしました。

私たち宝塚市人権・同和教育協議会に集う仲間は、この大震災で亡くなられた皆様に弔慰を表明するとともに、ご家族やご親戚、友人や仲間を亡くされ、家財を無くされ、放射能の恐怖からフルサトをも去らなければならず、今なお避難された場所での困難な生活を余儀なくされておられる皆様に、心からお見舞い申し上げます。

被災地は「雨二も負ケズ…」の地であり、古くは冷害から命を守りあった地です。優しく粘り強く、勤勉で誇り高い地です。生き抜かれた命を大切にされ、被災された皆様方で最も歩みの緩やかな人を置き去りにしない復旧と復興、そして新しいまちづくりが進み、全ての皆様方の笑顔が戻られる日が必ずやってくることを信じています。

私たち宝塚市人権・同和教育協議会の仲間は、踏まれる痛みと、踏みつけることの理不尽さを知っています。全ての人々の人権が尊ばれるべきことを学んできています。また、16年前には阪神・淡路大震災を経験してきました。

私たちは、それらの思いを抱いて、いつまでも人に優しい街・宝塚を創造していくことをお誓いし、被災地の皆様と共に歩むことをここに決議します。

2011年5月20日

宝塚市人権・同和教育協議会

＝みんなの理解と協力が広がりますように！＝

知っとう!! 1  
このマーク

マークには必ず意味が付されています。いずれも配慮の必要を理解することで思いやりの行動がとれますね。

障がいのある人のための国際シンボルマーク



障がいのある人が利用できる建物、施設であることを明確に表すマークで、特に車椅子利用者を限定するものではなく「すべての障がいのある人を対象」にしています。  
駐車場では建物の入り口近くに広くスペースが設けられていますが、その必要に理解と協力をしていきましょう。

耳マーク



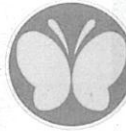
聞こえが不自由なことを表すマークです。自己表示で聞こえの不自由を知らせています。  
見た目ではわからないので、理解と協力をしていきましょう。

視覚障がいのある人のための国際シンボルマーク



視覚障がいのある人の安全やバリアフリーに考慮された建物、設備、機器などに付けられています。  
視覚障がいのある人は、白い杖や音によって安全を確認しています。道路に乱雑に物が置かれて通路を狭められるととても危険です。理解と協力をしていきましょう。

緑で黄色のチョウチョ



聴覚障がいのある人が運転している車を表します。  
(義務)

青で白のよつ葉



肢体不自由(したいふじゆう)の人が運転している車を表します。  
(努力義務)

オストメイトマーク



人工肛門(じんこうこうもん)・人口膀胱(じんこうぼうこう)を造設している人のための設備があることを表します。  
公共のトイレなどでよく見かけますね。

ハートプラスマーク



「身体内部に障がいのある人」を表すマークです。身体内部(心臓(しんそう)、呼吸機能(ききゅうきのう)、じん臓、膀胱(ぼうこう)、直腸(ちよくちょう)、小腸(しょうちょう)、免疫機能(めんえききのう))に障がいのある人は外見ではわかりにくいいため様々な誤解を受ける場合があります。  
マークは身体内部を意味する「ハートマーク」に思いやりの心を「プラス」したものです。



連載 夢と希望はいつだって  
②のち

すべての人間にとって平等に与えられたものに「誕生日」と「いのち」があります。今回は「いのち」です。

いのちはお母さんのお腹にいるときから心臓を動かし、育んでいくのですが、仮にわたしたちと同じ空気を吸うために、この世に生まれた瞬間から、心臓の脈を数えてみましょう。

一分間で七十回脈を打ってきたとしますと、一日で十万八千回、一年で三千六百七十九万二千回です。小学校一年生で二億二千万回を超え、中学一年生で四億七千八百万回を超えます。凄いですね。こうして生きていく証を誰もが平等に持っているわけです。

あなたは今、何回目の鼓動を打っているのでしょうか。子どもたちにも、ぜひ、今までの鼓動の回数を計算させたいものです。きっと、その多さにびっくりするでしょう。

さて、この鼓動をなんん(ひと)も止めることはできません。本来、自分自身もです。なぜなら古くから言われているように人の命は地球より重いのですから。そして平等に与えられているのですから。

わたしたちは阪神・淡路大震災や東日本大震災で多くの命を失いました。附属小学校事件やJR宝塚線の事故などでも宝塚市民の方も尊い命を奪われておられることを忘れていません。一方で、日本では夢と希望を奪われ自死される方が年間三万名を超えているといわれています。「いのち」それは人権そのものです。人権が損なわれたり、生きる権利を奪われるようなことがあれば、それこそ許せませんね。

わたしたちすべての市民の「いのち」すなわち「人権」が大切にされ、いつまでも希望と夢を持ち続けられるような、そんな街にしていきたいものです。

宝塚の小学校では、六年生が修学旅行で「ロシマ」へ行く時期に、学校全体で『平和』について考えます。  
平和報告会を見て思ったことや平和について考えた子どもたちの声です。

### わたしたちは平和を願っています

こぶんのできあがり

2年 ななか

6年生にヒロシマのことをおしえてもらいました。せんそうでしんだ人たちもほんとうは、生きてほしかったです。いえもつぶれてかなしそうでした。みんなのいのちをたいせつにして、みんなでたのしくあそびたいです。わたしができることは、みんなをたいせつにすることです。



語りべのおはなし

#### 私の平和宣言

6年 じゅね

今ある平和は昔に色々なきびしいこと・おそろしいこと・悲しいことをのりこえてできたものだと思います。でも、そんな思いをして平和にたどり着くより、人と人との関係や思いやりを大切にし、世界の人々全員がわがらひをこころが『平和』なんだと私は思います。

だから、今はかんげんな平和とはいえません。戦争をする国がなくなり、けんかのない世界になるために小さなケンカでもとめていこうと思います。

とてもとてもこわい

3年 あゆな

自分の前で親がごろされたりするのはだれもたえられません。にごとくなことがおきないように平和をまもっていききたいです。

いっしゅんのうちに人がいっばいしぬなんてとてもしんじられません。今日の平和集会で、ひがいにあった人がどんなにくるしんでいたかがわかりました。せんそうはこわいです。せんそうはおろかです。

みんなで守ろう世界の平和

6年 みつき

戦争が大きいです。戦争でほただけだから…。戦争でほとんどの幸せが失われていく…。そして、悲しみが増えていく。

私は、人の幸せ、世界の平和を守っていけるようにしたい。平和は世界の色々なものを生み出すと思うから。

世界の平和は、宝物だと思います。

### 阪同教大会

7月30日(土)、第58回兵庫県人権・同和教育研究大会阪神地区大会が、伊丹市立伊丹小学校、伊丹市立産業・情報センターで開催されました。宝同協から261名の参加があり、熱気溢れる大会となりました。

分科会の宝同協発表者は次の通りです。

○就学前教育 家庭地域との連携

「心つながる生活づくりをめざして」

Ⅱ子ども同士・保育者同士のつながりを通してⅡ 西谷認定こども園

○学校教育 家庭地域との連携

「認め合い支え合う集団づくり Ⅱ人権参観の取り組みを通してⅡ」 逆瀬台小学校

○いじめ・不登校

「不登校に対しての指導と課題」 長尾中学校

○PTA活動と人権

「心とからだのセルフケア Ⅱ悲しみを乗り越えるためにⅡ」 宝梅中学校PTA

○地域社会と自主活動

「学び人権・高める意識

Ⅱ宝塚市民生委員・児童委員連合会の取り組みⅡ 民生委員・児童委員連合会

### 憲法週間記念事業

5月27日(金)、宝塚市立東公民館において、「憲法週間記念事業」として、「受刑者の心に耳を傾けてください Ⅱ奈良少年刑務所詩集 空が青いから白をえらんだのですⅡ」と題して、作家で詩人の寮美千子(りょうみちこ)さんの講演会が、宝同協行政部の研修会も兼ねて開催されました。

講師の寮さんは、全国でも奈良少年刑務所のみで行われている先進的更生教育「社会性涵養(かんよう)プログラム」の講師として、受刑者たちに詩の指導をされています。講演では、受刑者たちが書いた詩を紹介しながら、詩の指導を通して受刑者たちが変わっていく様子についてお話をいただきました。

受刑者の本当の意味での更生がはじまるのは、刑を終えて出所し、社会に戻ってきたときであり、出所した人が二度と刑務所へ戻ることがないような社会にすることです。そして、犯罪のない明るいまちづくりを目指す必要性を強く感じました。



2010(平成22)年度人権・同和問題啓発作品入賞者

※学年は、2010年度の学年です。

■人権啓発作文の部

◆最優秀賞

- 『わたしの妹』 池田 鈴惟さん (宝塚小学校3年)
- 『いじめてしまった』 重國 実央さん (良元小学校6年)
- 『いっちゃん』 益田 妃奈さん (山手台中学校1年)
- 『絶対に許せない虐待』 足立 実緒さん (雲雀丘学園高等学校2年)

■人権啓発標語の部

◆最優秀賞

- 『ありがとう 言った数だけ さくえがお』 高谷 真美さん (小浜小学校3年)
- 『見てるだけ そんなあなたも いじめっ子』 吉谷 亜美さん (売布小学校6年)
- 『ごめんねを 許す心と 言う勇氣』 中川 朱夏さん (南ひばりガ丘中学校3年)
- 『差別心』 まだまだあるぞ 自己点検』 荒木 義雄さん (宝塚市民)

■人権啓発ポスターの部 ◆最優秀賞



本田 光花莉さん (宝塚小学校3年)



水口 愛菜さん (安倉小学校6年)



立間 愛さん (御殿山中学校3年)

お知らせ

多数のご参加をお待ちしています!

全同教研究大会の他は無料です

- 解放文化祭
  - 「くらんど人権文化センター」 11/5(土) 14時〜ソリオホール(要申込)
  - 「ひらい人権文化センター」 10/27(木)〜28(金) ○全同教研究大会 11/26(土)〜27(日)
  - 「まいたに人権文化センター」 10/28(金)〜29(土) ○人権を考える市民のつどい 12/8(木)
  - 「11/10(木)〜11(金)」 13時30分〜ソリオホール
  - 宝同協人権交流学びのつどい 1/21(土) 13時30分〜宝塚市立教育総合センター

宝同協役員

二〇一一年度

- 【会長】 和久有彦
- 【副会長】 梅田美佐子 (総務担当)
- 島村富夫 (研究担当)
- 竹内剛 (啓発・広報担当)
- 室崎俊洋 (会計担当)
- 【部長】
  - 室崎俊洋 (学校教育部)
  - 中原光男 (社会教育部)
  - 中西清純 (行政部)
  - 岡本学 (企業部)
  - 坂野はるみ (校区人権啓発部)

編集後記

今号から、宝同協各部より編集委員を選出しました。編集委員会ではみんなで和気あいあいと話し合いを重ねながら製作に取り組むことができました。最後に、定期総会での決議文のとおり、東日本大震災で被災された方々にエールを送り、希望を持って共に歩んでいきたいと思えます。

(朝倉・池澤・梅田・大塚・坂本・竹内・津国・長瀬・中原)